

紅葉シーズンにおけるダム来訪者への対応

鬼怒川ダム統合管理事務所 川俣ダム管理支所 管理第一係長 安田 裕則

1、川俣ダムの紹介

川俣ダムは、1966年に栃木県日光市に、洪水調節、不特定利水（既得農業用水の確保）、発電を目的に建設されたアーチ式コンクリートダムです。

とちぎ景勝100選「瀬戸合峡と川俣湖」に選出されており、ダム周辺の景観がとても素晴らしく、年間来訪者数はここ数年増加してきています。昨年度の来場者数は

1万6千人に達し、特に紅葉シーズン（10～11月）の来訪者数が全体の6割以上を占めています。

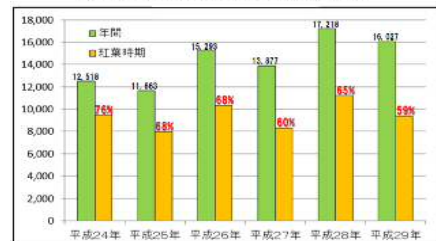


図-2 紅葉シーズンの川俣ダム



図-1 位置図

表-1 年間来訪者数と紅葉時期の割合



2、来訪者への対応

来訪者は、川俣ダムから少し離れた場所にある一般駐車場に車両を止め、遊歩道を通りダム堤体又は、瀬戸合峡に向かいますが、来訪者のピークとなる紅葉シーズンには、様々な問題が発生しました。

まず、駐車場についてですが、一度に40台しか止められなく、瀬戸合峡に架かる渡らっしやい吊橋までの所要時間（徒歩で往復40分程度）も掛かることから、駐車場が不足しました。

また、駐車場の空き状況が確認できないことや、ツアーバスが来る中で路上駐車等によりすれ違いが出来なくなってしまうことが発生しました。

対応としては、現在の一般駐車場が40台しか止められないため、別の場所に臨時駐車場を地元の方の協力を得て借り、一般駐車場には、誘導員を配置して交通の整理を行いました。その他、ツアーバス会社に文書にて協力依頼をお願いしました。



図-3 川俣ダム周辺と遊歩道



図-4 一般駐車場入り口の状況



図-5 路上駐車状況



図-6 交通誘導の状況(1)



図-7 交通誘導の状況(2)

次に、トイレの渋滞が発生しました。トイレは川俣ダム管理支所（男性2名、女性1名分）のトイレしかなく、来訪者数に対して不足していました。

対応としては、臨時トイレ（女性用）を1名分設置しました。



図-8 トイレの混雑状況



図-9 臨時トイレの設置状況

そして、来訪者が川俣ダム管理支所内や、スノーシェッド内へ迷い込んでしまうことや、遊歩道の開放時間を過ぎてから入場してしまい施設を閉鎖出来なくなることが生じました。また、川俣ダムに関する内容の問合せが、民間の見晴らし茶屋へ多数寄せられたことがありました。

迷い込みへの対応は、通路に施錠をし、注意喚起の表示をしました。遊歩道の閉鎖や問合せへの対応は、案内図の配布、案内看板・明示板の設置又はリニューアル、閉門対応の増員を行いました。



図-10 注意喚起表示の状況



図-11 トイレの対応状況



図-12 案内看板の設置状況



図-13 遊歩道の入り口

3、対応結果と今後の対応

全体としては、応急対応ではありますが、大きな混乱やトラブルもなく乗り切ることができました。今後は、抜本的な対応策の検討が必要になります。

駐車場については、臨時駐車場により駐車台数が増えたことと、誘導員の配置により改善は見られましたが、それでも駐車場待ちの渋滞や、路上駐車がまだ多い状態でした。

今後は、一般駐車場の駐車台数を増やし、渋滞や路上駐車を減らしていきたいです。

トイレについても、臨時トイレの設置により渋滞が改善されましたが、依然多いため、遊歩道内の別の箇所に常設トイレの設置を検討していきたいです。

迷い込みについては、通路の施錠で効果はありましたが、注意喚起の表示だけでは迷い込みは無くならないことがわかりました。遊歩道の閉鎖については、巡回を行って来訪者へ呼びかけることで閉鎖することが出来ました。

今後は、事務所ホームページ・ツイッターや、地元新聞による広報、関連・関係機関（他ダム・地元企画会社・日光市観光協会・バスツアー・タクシー会社）との連携・調整を図っていき、快適な川俣ダムの利用について周知を行いたい。

最後に、関係機関等と連携し、地域活性に取り組んでいきたいです。